



INTERVIEW



認知症に向き合い みんなで支え合う

奥さまに認知症の疑いがあり、浦添市に相談した
旦那さまに、当時の状況や、家族としての思いなど、
話を伺いました。

感じ始めた認知症のサイン

明らかにおかしいなと感じたのは、四六時中、通帳と印鑑が入った袋を肌見放さず持つていて、「お金に敏感になっている様子」が行動や言動に表れたことでした。時には「お金を盗ったでしょー」などと、突然、身に覚えの無いことで責められたりすることが増え、とても辛い思いをしました。

家族や離島に住んでいる兄弟に相談し、病院を何件も回りながら悩んでいた時、たまたま広報誌で認知症に関する掲載記事を見て、助けてほしい一心で市役所に相談しました。

支援の輪が広がった

相談した後は、すぐに動いてくれました。地域包括支援センターと繋いでくれたり、デイサービスや病院も紹介してくださり、認知症の介護についてわからないこともいろいろ話しました。



デイサービスでは、健康体操や遊びを通して足腰を動かしたり、歌を歌ったりと、ほかの利用者と交流を深めているようです。私はその時間に用事を済ませたり、花壇の手入れをするなど、自分の時間を過ごしています。

家族を大切にしたい

私は早くに母を亡くしているのので、家族を失う辛さを知っています。なので、どんな時でも家族を一番大事に思っています。妻は認知症で、できないことも多いですが、そんなときは少し時間をおいたり、休ませ



本人の楽しみ
デイサービスを利用して奥さまは「皆で歌うことが楽しみ。駄菓子屋を開くと、子どもたちが買いに来てくれるので、毎回、かわいい笑顔に癒やされます」と微笑みながら話してくれました。

悩みを抱えている人へ

自分の経験から言えることは、まずは悩みや現状を相談してほしいという事です。それぞれ境遇は違うと思いますが、私は相談したことで、たくさんの人と繋がることができました。本当に心から感謝しています。



認知症と 共に生きる

～住み慣れた地域でいつまでも～

誰もがなりうる認知症

認知症とは、さまざまな原因で、脳の働きが悪くなったり、神経細胞が死んでしまったりすることで、記憶力や判断力などの認知機能が低下し、日常生活に支障がでてくる状態をいいます。

令和5年3月31日現在、浦添市の認知症高齢者（※）は約2700人で、要介護認定を受けている人の約7割を占めています。今後、高齢化の進展とともに、認知症の人も増加していくと予想されています。

また、65歳未満で発症する認知症を「若年性認知症」と呼んでいます。認知症は誰もがなりうるものであり、家族や身近な人が認知症になるなど、多くの人にとって身近なものとなっています。

※要介護認定における認知症高齢者の日常生活自立度ランクⅡ以上

いつまでもいきいきと

認知症になると、周りの人との関係が損なわれたり、支えている家族が疲れ切ってしまうことも少なくありません。認知症は症状が悪化する前に適切な治療やサポートを受けることで、今の状態を維持改善できる場合があります。認知症の人が尊厳と希望を持ち、認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく、いきいきと暮らし続けられるよう、一人一人が認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守り、地域全体で支えていくことが必要です。

世界アルツハイマー月間 啓発イベント

こんなこと、ありませんか？

- ☐ もの忘れが多くなってきた
- ☐ 車をぶつけることが増えてきた
- ☐ 家族が認知症かもしれない
- ☐ 相談場所がわからない

日 時 9月19日(火)～21日(木)
時 間 午前9時～11時、午後1時～4時
場 所 いきいき高齢支援課 23 番窓口
地域包括支援センター窓口

もの忘れ相談会

オレンジライトアップ

世界アルツハイマーデーに合わせて、認知症の普及啓発のシンボルカラーであるオレンジ色に、ペットボトルを使ってライトアップします。

日 時 9月21日(木)
時 間 午後7時～8時30分
場 所 浦添市役所 正面玄関 横

※各地域でも実施します。詳しくは地域包括支援センターへ。



期 間

- ①9月1日(金)～14日(木) 午前11時まで
市役所1階 正面玄関 横
 - ②9月15日(金)～28日(木) 午後7時まで
市立図書館1階 エントランスホール
- ※認知症に関する図書の紹介をしています。



啓発パネル展

認知症サポーター養成講座

認知症サポーターになりませんか？

認知症の人やその家族に偏見を持たず、温かく見守る応援者(サポーター)となれるよう、認知症サポーター養成講座を行っています。



認知症サポーターキャラパンの
キャラクター「ロバ隊長」



▲詳しくはこちら